

アサザプロジェクトの出前授業の地域環境学習事例集

小中学校の総合学習や環境学習では、子どもたちが自分たちの地域についてよく知ること、地域の可能性に気づき、それを活かしたまちづくりを提案し、社会に働きかける取り組みに発展させていくことが重要です。そのような学習は、子ども達が地域の担い手として大きく成長することができる貴重な場となります。

アサザプロジェクトの出前授業では、子どもたちの持てる知識を総動員して、自分の考えを提案し、実現に向けた行動ができる人材になるための学習プログラムを全国各地で実施しています。このような実践を通して、子どもたちが主役となって、地域に眠っている資源や価値を掘り起こし、地域社会を巻き込んで新たなまちづくりを実現した事例がいくつも生まれてきました。ここで紹介する事例のように、みなさんの地域でも子ども達と共に地域が持つ可能性を掘り起こし、未来の地域づくりに取り組んでみませんか。

学習プログラムの流れ



① 気づく

はじめに生きもの（他者）の視点に立つ方法を学びます。他者の視点に立って身の周りを見直すことで、これまで見ていなかったつながり（文脈）や課題が見えてきます。



② 探求する

「ここにはどんな意味やつながりがあるのだろうか?」、「昔あったつながりが、なぜ今はなくなってしまったのか?」といった問いを自ら立て、関心、思考を深めていきます。



③ 提案する

身の周りの「つながり」は地域の文化や自然に根ざした固有のものです。そのつながりを価値に変えていく方法をインターネットや書籍だけではなく自ら考え、それぞれ考えたことを発表し、話し合い、共感し合い、より良い提案を考えます。



④ 働きかける

みんなで創りあげた提案を実現させるために、地域や社会に働きかけをします。このような体験によって、子ども達に勇気や自信を持たせることと同時に、コミュニケーション能力や表現力、知識などの不足などといった自分自身の課題に気付かせることで、生きる力に根ざした学習意欲を引き出します。